

ヒモギリ式火起こしセットの作り方



(単位はセンチメートルです)

物品	サイズ	素材
下敷き用の板	60(長さ)×15(幅)×3(厚さ)	スギでよいが、堅い素材でもよい
火切り板	60(長さ)×10(幅)×1.5(厚さ)	スギがよい
火切り棒	40(長さ)×2(幅)×2(厚さ)	スギがよい
ハンドピース	32(長さ)×4.5(幅)×4.5(厚さ)	カシ等堅い素材
ヒモ	350(長さ)×1.2~1.5(幅)	綿素材のものがよい
瓶飲料の王冠	-	-

①火切り棒は、長さ 40 センチメートルで切った後、火切り板側を、切り出しナイフを使って鉛筆を削る要領で削ります。王冠の内側で火切り板がうまく回るように、ハンドピース側の四つの角を少し切り落とします。



火切り棒



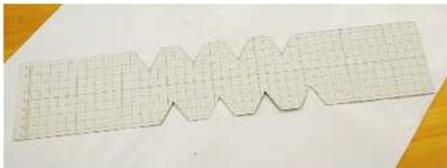
火切り板側



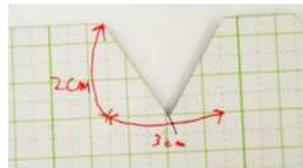
ハンドピース側

②火切り板を作る前に、工作用紙などで図のような型紙を作っておくとよいです(底辺 3cm、高さ 2cm の二等辺三角形、間隔は 2cm)。型紙に沿って火切り板に線を引き、その線に沿ってのこぎりで三角形を切り落とします。このとき、切り落とす三角形の上面よりも底面の方が少し狭くなるように、斜めにのこぎりの刃を入れると、火種ができやすくなります。のこぎりは目が細かい方が切りやすいです。

その後、三角形の頂点に少し架かるようにハンドドリルでくぼみを付けます。ハンドドリルのくぼみが三角形に架かっていない、あるいは架かりすぎだと、うまく火を起こせない場合があります。



火切り板の型紙



三角形の大きさ



火切り板



火切り板の溝

③ハンドピースは硬めの素材がいいのですが、穴を削るのは大変です。最初に太いドリルで中央に穴を空け、それから切り出しナイフで削っていきます。最後に瓶飲料の王冠を多用途接着剤(金属、木)でくっつけます。安全のため、両端の 4 つの角を少しけずり落とします。



ハンドピース



王冠



四隅

④硬い素材のヒモは使い込むと柔らかくなりますが、最初は使いにくいと思います。柔らかめの素材のヒモがあれば、柔らかい方がいいです。両端を結んで持ちやすくします。



★型紙用の線(A4 サイズで印刷すればほぼ原寸大)

